

東松島復興推進員だより（第12号）

～地を往きて走らず～

東日本大震災の発生から1年9ヵ月が過ぎました。全国ニュースでは、震災復興に関連するものも減ってきていますが、被災地では復興まちづくりに向けて、着実に歩みを進めています。

佐々木復興推進員が活動する東松島市野蒜地区では野蒜まちづくり協議会・市民センターが中心になり、7月18日に野蒜地区復興部を設置し復興班、教育施設班、医療福祉班、産業振興班の4班で市民による「復興まちづくり」の検討を開始しました。本取り組みは9月末までを目途に、市民による復興まちづくりの提言書を取りまとめることを目的として活動を行ってきました。

各班での会議では、市役所復興政策課職員も交えて、市の検討状況や計画を確認しながら市民による計画作りです。

各班とも、将来の街づくりに様々な思いや夢を抱きながら積極的に議論に参加していました。また、行政に対する批判ではなく、みんなで提案をして行こうという姿勢は、「市民協働のまちづくり」に取り組んできた東松島市の力だと感じます。



各班での議論の様子



各班での議論の様子

復興班では避難道路や避難所を実際に地区を歩いて提案すると共に、復興班で実施したアンケートを踏まえて高台移転地でのコミュニティのあり方を提案しました。教育施設班では津波で流失した運動施設などを新たな安全な場所に定め教育施設ゾーンとして提案。医療福祉班は、無医村状態の早期解消と共に新しい野蒜における高齢者から子供までが楽しく集う総合福祉施設の提案。産業振興班は、野蒜の宝である運河と松林を活かした観光や新たな産業について提案をしました。

各班での議論の結果は、全体会合で共有すると共に一つの提言書（案）として取りまとめ、野蒜まちづくり協議会にて承認され、市長への提言書として提出することが決まりました。10月16日には市役所において、野蒜まちづくり協議会から市長に提言書を提出するに至りました。



緊急避難場所の視察



復興協議会設立総会の開催

今後は、復興部は「野蒜地区復興協議会」に発展し、これまでの班も、復興部会、医療福祉部会、産業振興部会、教育施設部会、高台移転部会の5つの専門部会に分かれて、提言書の実現に向けて活動していきます。



市役所での提言書の報告



市長への提言書の提出

この中で、佐々木復興推進員は協議会復興部の事務局を担当し、協議の進行役、議事録、広報の協力をさせていただきました。推進員が提案し発行させてもらっている「野蒜復興新聞」は7月から現在までに4号を作成し地区住民へ配布し情報の共有を図ってきました。

今後も復興協議会における情報発信やファシリテーターとしての役割を担っていき、老若男女多くの方が参加でき、また楽しみながら、皆さんが望む理想の復興まちづくりを実現できる環境づくりに協力し、実現していけるよう活動していきます。

【野蒜まちづくり協議会】

<http://mm.higashimatsushima.net/matsumng/introduction.do?id=00007>

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
